

国語 第3学年 ことわざ・故事成語

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の11月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

ことわざと故事成語の意味を調べ、その言葉が合う出来事を自分で考える。由来の話と現在の使い方を区別する。単元の終わりに残すのは、語の意味と出典、意味が合う自作の短い場面、合うと判断した理由。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(3)イ	イ 長い間使われてきたことわざや慣用句，故事成語などの意味を知り，使うこと。
〔第3学年及び第4学年〕B 書くこと(1)エ	エ 間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして，文や文章を整えること。

単元の目標

ことわざや故事成語の意味を知り、場面に合う言葉を使える。文章を読み返し、伝えたい場面とことわざや故事成語の意味が合うかを確認められる。言葉の働きを確認め、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①ことわざや故事成語の意味を知り、場面に合う言葉を使っている。 （〔知識及び技能〕(3)イ）	①「書くこと」において、文章を読み返し、伝えたい場面とことわざや故事成語の意味が合うかを確認めている。（B(1)エ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全4時間（知・技②、書②）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○言葉の意味を辞典で調べる。	学習状況を見て支援する。
	2	○由来と現在の意味を区別する。	学習状況を見て支援する。
	3	○合う場面と合わない場面を比較する。	学習状況を見て支援する。
	4 （本時）	○自作の短い文で使い方を説明する。	知①・思①（発言・学習記録）

本時の案

本時の目標：文章を読み返し、伝えたい場面とことわざや故事成語の意味が合うかを確認められる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認め、自分の最初の考えを短く書く。 ○「この出来事にこの言葉を使うと、何を伝えられますか」 【めあて】ことわざと故事成語の意味を調べ、その言葉が合う出来事を自分で考える。 〈予想される児童の反応〉 ・字の意味を足すだけでは言葉全体の意味にならない。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「この出来事にこの言葉を使うと、何を伝えられますか」 教師が辞典で意味と由来を確認した語を扱う。独自例として「急がば回れ」を、単に道を遠回りした場面ではなく安全な方法を選んだ場面と比べる。 自分の語や文、話し方を試し、相手が受け取った内容と比べる。直す箇所を自分で選び、理由とともに記録する。 〈予想される児童の反応〉 ・字の意味を足すだけでは言葉全体の意味にならない。 ・由来を知ると覚えやすい。 ・この場面には別の言葉の方が合いそう。	教師が辞典で意味と由来を確認した語を扱う。独自例として「急がば回れ」を、単に道を遠回りした場面ではなく安全な方法を選んだ場面と比べる。 想定するつまずき：登場する物を含む出来事ならどんな場面にも使えると考える、由来を未確認のまま創作する。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 文章を読み返し、伝えたい場面とことわざや故事成語の意味が合うかを確認かめている。（発言と学習記録） ◎知① ことわざや故事成語の意味を知り、場面に合う言葉を使っている。（〔知識及び技能〕(3)イ）（使った言葉・音読や表記の確認）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・この場面には別の言葉の方が合いそう。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確認める。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に教材名とめあて、その左に問い「この出来事にこの言葉を使うと、何を伝えられますか」。中央は児童が使った語や文の例を並べ、確かめる箇所に印を付ける。その左に直す前と後の表現を並べ、変えた理由を線で対応させる。左端に、今日確かめた言葉の使い方を児童の言葉でまとめる。縦書きで右から左に

学習の順をたどる。

つまずきやすい所と手当て

つまずきとして、登場する物を含む出来事ならどんな場面にも使えると考える、由来を未確認のまま創作する。この場合は、教師が辞典で意味と由来を確認した語を扱う。独自例として「急がば回れ」を、単に道を遠回りした場面ではなく安全な方法を選んだ場面と比べる。おおむね満足できる状況は、文章を読み返し、伝えたい場面とことわざや故事成語の意味が合うかを確認しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

語の意味と出典、意味が合う自作の短い場面、合うと判断した理由。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（3年）「3年下巻」38行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/7ff6b471-db8d-470a-968a-a9899624022a/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

